

中日青年友好使者沙龙

iGCU | 北京大学中外人文交流研究基地
INSTITUTE FOR GLOBAL COOPERATION AND UNDERSTANDING, PEKING UNIVERSITY

日中友好を担う青年たちのサロン



第3号 No.3

中外の人的・文化交流 ブリーフィング

中日の人的・文化交流
の枠組み

Connecting People,
Understanding the World





中日両国は地理的に近く、文化的につながっている。¹ 歴史上、日本は何度も遣唐使を唐に派遣して学ばせ、中日両国の友好交流を促進してきた。唐の高僧鑑真も日本に渡って仏教を広め、日本の宗教の発展に大きな影響を与えた。新中国の建国以来、中日の人的・文化交流は、初期の創造、包括的な発展、認知の深化という3つの歴史的段階を経てきた。² 21世紀に入ると、中日の人的・文化交流は時には変動するが、2017年には勢いを増し、2019年には中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みが正式に確立された。2022年は中日国交正常化50周年であり、双方の共同努力の下で、両国の文化、教育、青少年、経済、観光などの分野で、交流が盛んに行われている。

¹ 新华网：《王毅同日本外相林芳正通电话》，2021年11月18日，http://www.news.cn/2021-11/18/c_1128077923.htm，2022-09-16。

² 尹允镇、李文娇：《试论中日人文交流的演变、特征及发展趋势》，《东北亚论坛》2020年第3期，第90页。

01 中日の人的・文化交流の枠組みの歴史

中日の人的・文化交流の枠組みは、両国が人的・文化交流の分野で確立したハイレベルな交流・対話の枠組みであり、中国と外国の人的・文化交流の枠組みの最新の成果でもある。2019年11月、中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みが正式に確立され、中国の中外の人的・文化交流の常態化制度のプラットフォームを豊かにしただけでなく、新時代に合致する中日関係を構築するための世論の基盤を固め、中日関係を新たな未来へと推進した。

2015年5月23日、習近平国家主席は中日友好交流会議で重要な演説を行い、新時代の中日の人的・文化交流の新たな発展の方向性を示した。演説では次のように述べている。「中日友好の基礎は民間にあり、中日関係の前途は両国国民の手に握られている。両国関係の発展が不調であればあるほど、両国の各界の人達が積極的に活動し、双方が民間交流を強化し、両国関係の発展改善のための条件と環境を作る必要がある。」¹

2018年は、『中日平和友好条約』締結40周年であった。この重要な時期には、中日両国の高官が続々と一連の活動を展開している。5月8日、李克強首相が日本を訪問した。10月25日、安倍晋三首相が中国を訪問し、8年近く中断していた中日ハイレベルな相互訪問が全面的に再開された。

2019年5月1日、新中国は建国50周年を迎え、日本には徳仁天皇が即位し、「令和」の時代を迎えた。中日両国の人的・文化交流は新しい時代に入った。

2019年6月、習近平国家主席は日本の大阪を訪れ、第14回G20首脳会議に出席し、当時の日本の安倍晋三首相と10項目の合意を行った。両国の首脳は、中国と日本は共にアジア文明の発展の重要な貢献者であり、両国の深い歴史的・文化的起源に基づいて、人文分野における交流と協力を引き続き強化すべきであると強調し、年内にハイレベルな人的・文化交流対話の枠組みを開始することを決定した。² このサミットは、中日の人的・文化交流の枠組みの確立のための良い基盤を築いた。

2019年11月22～26日、王毅国務委員兼外相は当時の日本の茂木敏充外相とともに、中日

¹ 新华网：《习近平在中日友好交流大会上的讲话（全文）》，2015年5月23日，http://www.xinhuanet.com/politics/2015-05/23/c_11115384379.htm，2022-08-16。

² 环球网：《习近平会见安倍晋三，双方达成十点共识》，2019年6月27日，<https://m.huanqiu.com/article/9CaKrnlbCw>，2022-08-16。

ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの第1回会議を開催した。双方は両国の文化、教育、スポーツ、観光、メディア、映画・テレビ、地方、女性、青少年などの各分野での協力を促進するため、深く意見を交換し、2020年の交流プロジェクトを共同で計画し、多元的でインタラクティブで、素晴らしい人的・文化交流の新たなパターンの構築に努めることとした。¹ 中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの第1回会議の開催は中日の人的・文化交流の枠組みの正式な確立を示している。

2019年11月25日、習近平国家主席と当時の日本の安倍晋三首相はそれぞれ書簡を送り、中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの第1回会議が成功裏に開催されたことを祝福した。習近平国家主席は、現在の日中関係は改善が続いていると強調し、中国と日本がこの枠組みを共同で活用し、人的・文化交流を推進して、人々の相互理解を促進し、新時代の要求に合致した中日関係の構築と発展のための人的・文化支援を提供することに期待した。²

2019年の中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの第1回会議では、次の8つの重要な合意を行った。2020年を「中日文化・スポーツ交流推進年」と決定。中日の双方向の修学旅行の再開と拡大。両国間の人的交流をバランスよく拡大し、1500万人をできるだけ早く突破し、中日観光代表者フォーラムを成功裏に開催する。映画・テレビ、音楽、アニメ、出版などの文化産業の協力及びハイレベル芸術団の交流と相互訪問を促進する。2020年東京オリンピックと2022年北京冬季オリンピックの開催を相互支援し、オリンピック協力を絆として、両国のスポーツ分野における交流と協力のレベルを高める。メディアの相互訪問、交流、協力を支援する。女性事業推進の経験を共有し、男女共同の参画と発展の協力を促進する。2021年の適切な時期に中国で中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの第2回会議を開催することに同意。³

2020年11月24日、王毅国務委員兼外相は東京で当時の日本の茂木敏充外相と共同記者会見を行った。双方は、多くの重要な共通認識と具体的な成果を得ることができた。双方は、東京オリンピックと北京冬季オリンピックの開催を支援するため、互いに協力することで合意した。適切な時期に中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの会議を開催し、コロナ禍収束後に二国間の人的往来を全面的に再開し、地方の交流協力を拡大し、両国国民の相互理解と友好感情を増進し、両国関係の世論環境を改善させることについて認識を一致させた。⁴

2022年は中日国交正常化50周年であり、人的・文化交流が中日関係をリードして新たなページを開く良い契機となる。中国の孔鉉佑駐日大使は「国交正常化50周年記念・平和と発展

¹ 中国政府網：《王毅同日本外相茂木敏充共同主持中日高级别人文交流磋商机制首次会议》，2019年1月25日，http://www.gov.cn/guowuyuan/2019-11/25/content_5455481.htm，2022-08-16。

² 人民网：《习近平向中日高级别人文交流磋商机制首次会议致贺信》，2019年11月25日，<http://politics.people.com.cn/n1/2019/1125/c1024-31473371.html>，2022-08-16。

³ 中国政府網：《王毅同日本外相茂木敏充共同主持中日高级别人文交流磋商机制首次会议》，2019年11月25日，http://www.gov.cn/guowuyuan/2019-11/25/content_5455481.htm，2022-08-16。

⁴ 新华网：《王毅：中日达成五点重要共识和六项具体成果》，2020年11月24日，http://www.xinhuanet.com/world/2020-11/25/c_1126781909.htm，2022-09-21。

の時代のテーマを考える」という講演で、次のように指摘した。双方はコロナ禍の影響を克服するために努力し、積極的に行動し、人的・文化交流と民間、地方の交流を幅広く展開し、頻繁な交流を維持し、両国国民の相互理解を増進し、世論の低下傾向を逆転させなければならない。中日関係の未来は若い世代にかかっており、双方は青少年交流を重点的に強化し、より多くの若者に中日関係の発展に関心を持たせ、中日友好事業に積極的に参加するようにし、新しい時代の民間友好の新たな盛り上がりをリードしなければならない。¹⁾

02 中日の人的・文化交流の関連機構

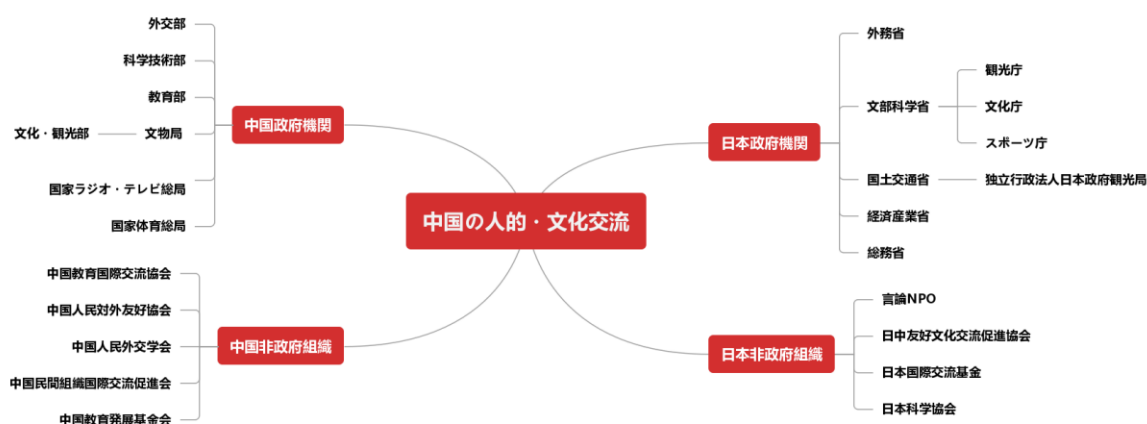


図1 中日の人的・文化交流の関連組織

中日の人的・文化交流は政府と民間が共同で推進している。政府レベルでは、中国側の主要機関には外交部、教育部、科学技術部、文化・観光部、国家ラジオ・テレビ総局、国家体育総局などが含まれる。日本側の主要機関には外務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、総務省などが含まれる。民間レベルでは、両国とも多くの非政府組織が人的・文化交流の実践に積極的

¹⁾ 外交部：《日本大使孔铉佑在日中协会发表“纪念邦交正常化 50 周年、思考和平与发展时代主题”演讲》，2022 年 6 月 1 日，https://www.mfa.gov.cn/web/zwbdt_673032/gzhd_673042/202206/t20220601_10697514.shtml，2022-08-16。

に参加している。中国側の組織には主に中国教育国際交流協会、中国人民对外友好協会、中国人民外交学会、中国教育発展基金会、中国民間組織国際交流促進会などがある。日本側の組織には主に言論 NPO、日中友好文化交流促進協会、日本科学協会、日本国際交流基金などがある。

03 中日の人的・文化交流 のトップデザイン

日本外務省は2007年の『外交青書』で「パブリック・ディプロマシー」（公共外交）の外戦略を提唱した。¹日本の公共外交には、海外広報、文化交流、人材交流、国際機関との協力、文化方面への無償資金提供、対日理解促進交流プログラム、その他の公共外交が含まれる。海外広報は主に、日本の外交政策、政治、経済、社会、文化などの各方面の状況を他国に積極的に知らせる役割を担っている。文化交流は主に国際交流基金とともに、日本の伝統文化や主流文化を他国に紹介し、民間組織の交流活動を支援することを目的としている。人材交流には主に政府関係者、学者、青少年、留学生、スポーツなどの分野の交流が含まれる。国際機関との協力とは、主に国連教育科学文化機関（ユネスコ）、国連大学が開催する国際交流活動を支援することを指す。文化方面への無償資金提供とは、主に発展途上国に文化や高等教育の振興に必要な機材や施設を提供することを指す。対日理解促進交流プログラムは、主に外務省が推進する人材派遣、求人、オンライン交流活動を指す。²

日本の出入国在留管理庁の統計によると、2021年の在日中国人留学生は96,594人に達し、留学生総数の46.5%を占め、他国をはるかに上回った。³留学生は中外の人的・文化交流の民間大使として、内外のつながりを引き出し、架け橋となる役割を担っている。日本の公共外交政策は間違いなく中日の人的・文化交流を促進した。

¹ 外務省：『Magnetism of Japan ～日本のソフトパワーを追って～』（外務省：《Magnetism of Japan ～追求日本软实力～》），2007年11月28日，https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/listen/interview2/intv_01.html，2022-08-16。

² 外務省：『広報文化外交』（外務省：《公共外交》），<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/index.html>，2022-08-16。

³ 参見日本出入国在留管理庁：<https://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/index.html>，2022-09-01。

2019年12月6日、中国共産党中央政治局委員、中央外事工作委員会弁公室主任の楊潔篪氏は当時の日本国家安全保障局局長の北村滋氏と第7回中日ハイレベル政治対話の共同議長を務めた。楊潔篪氏は、双方は戦略的視点で両国関係を検討し、把握し、中日の4つの政治文書を堅持し、相互尊重、平等互惠、相互内政不干渉を堅持し、指導者の重要な共通認識の実行を急ぎ、両国関係の健全で安定した発展を積極的に推進しなければならないと述べた。そして、楊潔篪氏は、次のように指摘している。世界の大きな変化、アジアの新たな機会、中日の新時代は、中日関係の長期的な発展に有利な条件を提供している。双方は、政治的相互信頼を絶えず強化し、パートナー意識をしっかりと確立し、長期的な大局的概念を堅持し、互いの核心的利益と重大な関心を尊重し、様々な分野での交流と協力を深め、矛盾・相違を適切に管理、処理すべきである。双方は、現在の中日関係は改善発展の勢いを維持しているとの認識で一致した。双方は、来年の両国間の重要な政治外交の議題が円滑に行われるよう、共に努力して、慎重に設計と準備を行い、調和のとれた雰囲気を醸成することとした。¹

2020年2月28日、中国共産党中央政治局委員、中央外事工作委員会弁公室主任の楊潔篪氏は当時の日本国家安全保障局局長の北村滋氏と第8回中日ハイレベル政治対話の共同議長を務めた。この対話は、中国と日本が新型コロナウイルスの流行と闘うために全力を挙げる特別な時期に当たり、双方が協力して流行と闘うための意見交換を行った。楊潔篪氏は、コロナ禍に直面して、中日両国は互いに助け合い、共に困難を克服し、このコロナ禍の試練を乗り越えて、中日が代々友好的にやっていくことは両国国民の共通の願いと行動になると信じていると指摘した。北村氏は、次のように述べた。中国側が断固とした強力な措置を取って新型コロナと戦い、著しい効果を収めたことを高く評価し、中国側の新型コロナとの戦いの経験は日本にとって前向きな参考になる。日本側は中国側と公共衛生安全分野の情報共有、経験交流、技術協力を強化し、国際公共の衛生安全を共同で維持することを望んでいる。²

2020年11月24日、中国の王毅国務委員兼外相は東京で当時の日本の茂木敏充外相と会談した。王毅氏は、次のように表明した。ここ数年来、双方の共同努力の下で、中日関係は再び軌道に乗り、改善と発展を続けており、双方がこれを大切にし、維持することは価値がある。両国の指導者は「互いのパートナーであり、互いの脅威ではない」、「競争を調和に変える」などの一連の重要な共通認識に達した。中国側は同日、上記の共通認識に基づいて、「ポストコロナ」時代に着目し、より質の高い協力を展開し、中日の相互利益とウィンウィンの新たな局面を切り開くことを望んでいる。双方は、コロナ禍の影響を克服し、両国の様々な部門間の対話と交流を徐々に再開し、引き続き新型コロナ対策協力を展開し、経済・貿易投資、サービス貿易、省エネ・環境保護、電子商取引、医療・介護、防災・減災、デジタル経済、グリーン開発、地域交流、

¹ 人民网：《中日第七次高级别政治对话在北京举行》，2019年12月6日，<http://world.people.com.cn/n1/2019/1206/c1002-31494603.html>，2022-08-16。

² 人民网：《中日第八次高级别政治对话在东京举行》，2020年2月29日，<http://japan.people.com.cn/n1/2020/0229/c35421-31610512.html>，2022-08-16。

気候変動などの分野で互惠協力を拡大しなければならない。茂木敏充氏は、次のように表明した。王毅国務委員の今回の訪問は新型コロナ発生以来、日中外相の初の対面会談であり、両国のハイレベルな交流の再開に重要な意義がある。日本側は中国側とともに、両国の指導者の共通認識を積極的に実行し、両国のハイレベル交流を維持し、両国の議会、経済貿易、外交当局の協議と安全対話を再開し、両国の観光、医療保健、省エネ・環境保護、農産物貿易、気候変動などの分野での協力を拡大し、両国の青少年と文化・スポーツ交流をさらに強化することを望んでいる。日本側は中国側の日本の新型コロナ対策への支援に感謝し、中国側と新型コロナ対策の協力を強化したいと考えている。双方は、東京オリンピックと北京冬季オリンピックの開催を互いに支援し、新型コロナの予防・抑制を厳格に行う前提の下で11月中に両国のビジネスなど必要な人の往来を便利にする「ファストトラック」を開始し、中日の気候変動に関する政策協議メカニズムと中日の食品・農水産品協力のための部門横断の協議メカニズムを確立し、2022年中日国交正常化50周年記念活動の準備を開始することで合意した。¹

2021年10月26日、中日民間交流の最も重要なプラットフォームの一つである第17回「北京—東京フォーラム」の開幕式が北京、東京の会場に分かれて行われた。中国外文局の高岸明副局长兼編集長は『北京コンセンサス』を読み上げた。コンセンサスは次のように指摘している。中日関係の健全で安定した発展を維持することが重要である。アジアと世界情勢に深刻な変化が生じ、両国の国民は中日関係の行方に高い関心を寄せている。特に、政府や民間レベルでの広範で率直な対話、相互理解の促進、二国間関係の将来について協議する必要がある。新型コロナウイルスの影響で中日両国の国民の対面交流が減少し、多くの対話の枠組みが停滞している。このような背景から、民間交流の維持・強化の必要性が高まっている。「民間外交」は政府外交と相互に補完し、新しい時代の要求に合致する中日関係の構築に独自の役割を果たすことができると信じている。²

2021年11月18日、王毅国務委員兼外相は日本の林芳正外相と電話会談した。王毅部長は、双方は地理的に近く、文化的につながっている独特の優位性を十分に発揮し、北京冬季オリンピックと今年と来年の2年間の「中日文化・スポーツ交流推進年」を契機に、積極的に世論と社会的雰囲気醸成しなければならないと強調した。林芳正氏は、日本側は中国側とともに、来年の国交正常化50周年を契機に対話と交流を強化し、互惠協力を深め、国民の交流を増進し、相違を適切に管理し、地球規模の課題に責任を持ち、「互いに脅威にならない」などの共通認識を実行し、安定的で建設的な日中関係の構築を推進したいと述べた。³

2022年8月17日、中国共産党中央政治局委員、中央外事工作委员会办公室主任の楊潔篪氏

¹ 中国新闻网：《王毅同日本外相茂木敏充举行会谈》，2020年11月24日，<https://www.chinanews.com.cn/gn/2020/11-24/9346600.shtml>，2022-09-01。

² 中国网：《中国发布 | 第十七届“北京—东京论坛”发表共识 中日应携手解决全球性问题》，2021年10月26日，http://news.china.com.cn/2021-10/26/content_77834426.html，2022-08-16。

³ 人民网：《王毅同日本外相林芳正通电话》，2021年11月19日，<http://cjkeizai.j.people.com.cn/n1/2021/1119/c368504-32287148.html>，2022-08-16。

は天津で日本国家安全保障局局長の秋葉剛男氏と第9回中日ハイレベル政治対話の共同議長を務めた。楊潔篪氏は、次のように述べた。中日両国の2000年余りの交流史と国交正常化50周年の歩みは、平和的共存と友好協力が両国関係の唯一の正しい選択であることを双方に示している。双方は指導者の重要な共通認識を政治的指針と行動の拠り所とし、高い責任感と使命感を持ち、歴史を深く総括し、決意を貫き、内外の干渉を排除し、新時代の要求に合致する中日関係の構築に共同で取り組むべきである。¹

2022年9月12日、駐日大使館と日本経済団体連合会は共同で「初心を忘れず、未来をひらく」中日国交正常化50周年記念シンポジウムを主催した。王毅國務委員兼外相、日本の林芳正外相がそれぞれビデオメッセージを発表した。孔鉉佑駐日大使、日本の福田康夫元首相が基調講演を行った。会議は次のように強調した。双方は民間友好を活性化し、人的・文化交流と民間の地方交流を幅広く展開し、未来を見据えて青少年交流を強化するとともに、ポストコロナの秩序ある人的往來の回復のためにエネルギーを蓄え、民間友好の新たなブームを巻き起こさなければならない。正義の正しい道を守り、真の多国間主義と開放的な地域主義を実践し、団結するか分裂するか、協力するか対抗するかの重大な選択の前に正しい選択を行い、混乱した世界により多くの安定性と正のエネルギーを注入しなければならない。²

2022年11月17日、習近平国家主席はタイのバンコクで岸田文雄首相と会見した。双方は協議を経て、二国間関係の安定と発展に関する五つの共通認識を達成した。共通認識は下記のとおりである。中日関係の重要性は変わっていないし、変わらない。双方は中日間の四つの政治文書的基本原则を順守し、「互いを協力パートナーとし、互いに脅威とならない」という政治共通認識を実践する。ハイレベル交流と対話・意思疎通を強化し、政治的相互信頼を絶えず増進し、新時代の要請に合致する建設的且つ安定的な中日関係の構築に共に尽力する。新たな中日ハイレベル人文交流協議メカニズム会議を早期に実現する。政府、政党、議会、地方、青少年などの交流を積極的に展開する。³

2023年10月23日、中国共産党中央政治局委員で党中央外事工作委员会办公室主任の王毅氏は中日平和友好条約締結45周年記念レセプションで、次のように指摘した。中日は互いに重要な隣国であり、長い歴史的起源と緊密な文化的結びつきを持っており、善隣友好は双方にとって唯一の正しい選択だ。善隣友好を堅持し、両国関係の民意の基盤を改善し、両国の地理的な近さと人文が相通ずる独特の優位性を十分に発揮し、多くの分野或いは多くのチャンネルで友好交流を継続し、両国の国民、特に若い世代が客観的かつ友好的な相互認識を確立することを促進し、中日友好の新たな時代の章を書き続けなければならない。⁴

¹ 人民网：《中日第九次高级别政治对话在天津举行》，2022年8月18日，<http://cjkeizai.j.people.com.cn/n1/2022/0818/c368504-32505895.html>，2022-09-01。

² 中华人民共和国驻日本国大使馆：《驻日本使馆举办“不忘初心、开创未来”纪念中日邦交正常化50周年研讨会》，2022年9月12日，http://jp.china-embassy.gov.cn/sgkxnews/202209/t20220912_10765287.htm，2022-09-14。

³ 新华网：《中日双方就稳定和发展双边关系达成五点共识》，2022年11月18日，http://www.news.cn/world/2022-11/18/c_1129137848.htm，2022-11-18。

⁴ 外交部：《王毅出席纪念中日和平友好条约缔结45周年招待会》，2023年10月24日，https://www.mfa.gov.cn/web/zwbd_673032/gzhd_673042/202206/t20220601_10697514.shtml，2023-10-24。

04 中日の人的・文化交流 の分野

中日の人的・文化交流の枠組みの下で、両国は文化、教育、スポーツ、観光、健康、地方、青少年、経済貿易などの分野で良好な成果を収めてきた。

（一）文化

2020年12月4日、中日和合文明フォーラムがビデオ会議形式で北京と東京で開催された。中国と日本の友好的な人々がクラウドに集まり、中日の文化交流、文明の相互理解などのテーマをめぐって深く交流し、新時代の要求に合致する中日関係をどのように構築するかを共同で検討し、友好交流、共通認識の促進、アジアと世界の調和と繁栄のために手を携えて努力する意思を表明した。¹

2021年11月23日、Panda杯全日本青年作文コンクールのオンライン授賞式が開催された。Panda杯全日本青年作文コンクールは、駐日中国大使館、中国外文局アジア太平洋伝播センター、日本科学協会が共催し、2021年までに8回開催されている。中国の孔鉉佑駐日大使は、8年間で3500人近くの日本の青年がこのプラットフォームを通じて自分の中国の物語を語り、自分の「中国観」を分かち合い、日本国民の対中認識の増進に窓口を開き、中日友好の伝承と発揚に新鮮な活力を注入したと述べた。²

2022年4月9日～10日、中日国交正常化50周年を記念し、中日文化交流を促進するため、OneAsia fes 2022～中日文化交流フェスティバル～が東京都豊島区で開催された。イベントでは、中日両国のアーティストがステージに登場して素晴らしい演目を披露し、歌で友となり、ダンスで情を伝え、中日の多彩な優れた民間文化と深い友情を示した。³

¹ 人民网：《为构建人类命运共同体提供东方智慧 中日和合文明论坛召开》，2020年12月7日，<http://japan.people.com.cn/n1/2020/1207/c35421-31957400.html>，2022-08-16。

² 人民网：《2021“熊猫杯”日本青年征文大赛举行线上颁奖仪式》，2021年11月24日，<http://world.people.com.cn/n1/2021/1124/c1002-32291148.html>，2022-08-16。

³ 人民网：《“OneAsia 亚洲节 2022”在东京举办 促进中日文化交流》，2022年4月11日，<http://japan.people.com.cn/n1/2022/0411/c35421-32396246.html>，2022-08-16。

（二）教育

中日の教育交流は中日の人的・文化交流の柱である。中日教育交流会は中日両国の教育交流のハイレベルな盛会として、長年の発展を経てすでに両国教育界の全方位かつ多分野のための交流の重要なプラットフォームの一つとなり、両国の学校、学者、青年間の交流と対話の架け橋となり、両国の人的・文化交流を深め、国民の相互理解と友好を促進し、中日友好を促進する上で重要な役割を果たしてきた。¹

2019年11月27日、第6回中日教育交流会が大阪で開催された。当時の中国教育国際交流協会の趙靈山副会長は、1972年の中日国交正常化以来、中日両国の教育交流は双方の共同努力の下で絶えず発展し、協力分野は持続的に拡大し、レベルは日増しに向上し、中日関係の不可欠な重要な構成部分となり、知識の伝播、人材の育成、双方の相互理解の増進、両国の共同発展の促進に積極的な役割を果たしてきたと述べた。趙靈山氏は中日の民間の教育交流と協力の深化について以下の2点を提案した。第一に、高等教育機関の協力を促進し、実効性を高める。第二に、青少年の交流を促進し、効果を出す。前中国駐大阪総領事の李天然氏は、大阪圏には多くの質の高い教育資源と恵まれた社会経済発展の優位性があるため、日本の対中教育交流が最も活発な地域の一つになっていることを紹介した。大阪圏の日本の大学と科学研究機関は2万5000人の中国人留学生の留学と就職を誘致し、中国の大学、科学研究機関と数多くの学生交換、共同研究などの協力協定に署名している。²

2021年7月9日、第7回中日教育交流会が成功裏に開催された。会議では、「ポストコロナ時代の中日教育交流」をテーマに、初めて「オフライン+オンライン」の二線融合モデルを採用し、中日大学学長フォーラム、中日高等学校フォーラムを設置し、それぞれ「ポストコロナ時代の高度人材の育成」「アフターコロナにおける日中の国際教育連携」「日中高校の教育改革」と「日中高校の国際交流と連携」などについて議論した。中国教育国際交流協会の王永利事務総長は未来の中日教育協力に対して次の3つの期待を提起した。中日両国の教育界が現在に注意を払い、中日関係の長期的で健全で安定した発展を支援することを期待する。変化に焦点を当て、中日の教育交流と協力を一層深める。未来に向けて、人類運命共同体の構築を、手を携えて推進する。³

（三）スポーツ

2021～2022年は「中日文化・スポーツ交流推進年」である。2021年に日本で開催された

¹ 中国教育国際交流協会：《第七屆中日教育交流會在青島成功舉辦》，2021年7月9日，<http://www.ceaie.edu.cn/zongheyuyanfabu/bumendongtai/2721.html>，2022-08-17。

² 人民網：《深化人文領域交流 第六屆中日教育交流會舉辦》，2019年11月28日，<http://japan.people.com.cn/n1/2019/1128/c35421-31478536.html>，2022-08-16。

³ 中国教育国際交流協会：《第七屆中日教育交流會在青島成功舉辦》，2021年7月9日，<http://www.ceaie.edu.cn/zongheyuyanfabu/bumendongtai/2721.html>，2022-08-17。

東京オリンピックと2022年に中国で開催された北京オリンピックは中日両国の国民の交流イベントとなった。

両国はオリンピックの準備において互いに支援を提供しあった。中国は東京オリンピックを支援するため、史上最大の海外オリンピック代表団を派遣し、北京冬季オリンピックの日本代表団は、これまで冬季オリンピックに出場した中で、人数が最多の代表団であった。

『日本経済新聞』によると、北京冬季オリンピックを通じて、若い世代を中心とした中国人の日本に対するイメージが改善され、日本人がSNSで北京冬季オリンピックや中国選手を応援していることが報道されると、中国でも好反応を得たという。¹⁾

(四) 観光

中日観光代表者フォーラムは両国の観光業の発展と協力を推進し、両国の青少年交流と地方交流を拡大することを目的としており、中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの第1回会議の成果の共通認識を実行するための重要な取り組みである。

2019年12月5日、中日両国政府は日本の山梨県北杜市で第1回中日観光代表者フォーラムを開催し、双方は両国の人的往来をバランスよく拡大し、1500万人を早期に突破する目標の実現をめぐって、両国の観光業界が協力と相互作用をさらに強化することで合意した。²⁾

2021年12月7日、第2回中日観光代表者フォーラムはオンラインとオフラインの結合方式で、浙江省紹興で開催され、「アフターコロナ時代における旅行・観光業界のテクノロジー活用による観光回復・促進」をテーマに、中日双方の観光業界と地方代表がテーマをめぐって交流し、フォーラム期間中に『紹興宣言』も採択された。2022年は、第3回中日観光代表者フォーラムが日本の和歌山県で開催される予定だ。³⁾

(五) 健康

中日新時代健康フォーラムはグローバル健康フォーラムの枠組み内の重要な会議であり、中日の友好交流を推進し、両国のグリーン開発、カーボン・ニュートラル、医療・介護などの分野での実務的協力を促進することを目的としている。

2020年12月22日、第1回中日新時代健康フォーラムが開催された。参加者は概ね次のように考えている。新型コロナ予防・抑制の常態化を背景に、中日両国は世界の2大経済大国として、手を携えて前進し、グリーン開発、カーボン・ニュートラル、医療・介護、健康な都市生活

¹⁾ 日経中文网：《夏目英男：冬奥成为促进日中理解的契机》，2022年2月21日，<https://cn.nikkei.com>，2022-08-16。

²⁾ 新华网：《第一届中日旅游论坛在日本成功举办》，2019年12月6日，http://www.xinhuanet.com/world/2019-12/06/c_1125313687.htm，2022-08-16。

³⁾ 中华人民共和国文化和旅游部：《第二届中日旅游论坛在绍兴举办》，2021年12月8日，https://www.mct.gov.cn/whzx/whyw/202112/t20211208_929663.htm，2022-08-16。

などの分野でより深く実務的な協力を展開し、共同で責任を担い、世界の環境保護と健康事業のために共同で努力をしなければならない。同時に、中日は医療健康分野で広範な協力の将来性と巨大な協力の潜在力を持っており、薬物とワクチンの共同研究開発と公平な分配、二国間と多国間の人的往来、再生産、公共衛生管理システムの構築と完備などの多くの方面で積極的な協力を展開することができる。¹

2021年6月3日、第2回中日新時代健康フォーラムが開催された。参加した中日両国の参加者は概ね次のように考えている。「人類健康・地球健康」は中日両国が堅持する共通の理念であり、中日の健康分野での協力の将来性は広く、潜在力は大きい。双方は、多面的かつ幅広い分野での健康協力を通じて、優位性の相互補完、資源の共有を実現し、世界の健康事業のために努力しなければならない。²

（六）地方

中国の国際友好都市は、日本と設立されたのが最初であった。1972年、中日の国交が正常化した。天津市と日本の神戸市は1973年6月に友好都市として正式に締結された。1973年から1978年にかけて、中国が対外的に設立した6つの友好都市はいずれも日本と締結された。それ以来、中国の国際友好都市建設は絶えず拡大している。現在、中国と日本は393組の友好都市関係を締結している。³友好都市は両国民間の友好的な往来を促進し、両地の共同の発展も促進した。

関係を結ぶ中日の友好都市は当初は行政レベルの高い都市、または歴史的、文化的都市だった。中国側は上海、北京、西安、杭州などを代表とし、日本側は横浜、大阪、京都、東京などを代表とした。両国関係が深くなり、経済貿易関係が密接になるにつれて、ますます多くの中小都市や特色ある都市が中日友好都市の主導的な役割を果たすようになっていく。友好都市間には団体の相互訪問などの交流形式のほか、友好学校、友好放送局、友好病院、友好港などの末端の交流形式も確立され、両国関係に新たな意味合いを与えている。⁴

2021年4月6日、洛陽市と日本の岡山市の友好都市締結40周年記念イベント「白馬寺と長泉寺の祝福の鐘」が2カ所で同時に開催された。1981年に友好都市を締結して以来、両市は一貫して開放理念を堅持し、発展の機会を共有し、協力分野を広げ、交流と融和を深め、両市の友好事業の安定と遠大化を共に推進してきた。洛陽市の白馬寺と岡山市の長泉寺も仏教文化交流

¹ 人民网：《中日新时代健康论坛举行》，2020年12月24日，<http://gs.people.com.cn/n2/2020/1224/c183356-34491726.html>，2022-08-16。

² 日本医療国際化機構：《第二届中日新时代健康论坛成功举办》，2021年6月7日，<https://ngmo.or.jp/cn/?p=987>，2022-08-16。

³ 参见日本中国友好协会：<https://www.j-cfa.com/document/>，2022-09-01。

⁴ 日本東方新報：《日中友好城市温暖彼此》，2022年9月2日，http://www.livejapan.cn/static/content/review/review_sound/review_sound_editorial/2022-09-02/1015337494377533440.html，2022-9-14。

の友好的な相互訪問活動を続け、両市の深い理解を促進してきた。¹

2022年6月17日、2022中日経済・環境交流協力フォーラムが蘇州相城経済技術開発区で開催された。相城区は2020年4月に中日（蘇州）地方発展協力モデル区に承認され、全国で唯一、県レベルで全域をカバーするモデル区となった。このフォーラムでは、相城区は対日協力の最新成果を発表するとともに、このフォーラムを通じて、相城区は中日企業、金融機関代表、対日関係機関などをクラウド上に広く招き、協力と共同の発展を深めている。²

2022年7月21日、山東省－山口県友好協定締結40周年記念オンライン交流会と（中国）山東－日本友好都市交流ウィークが済南で開幕した。「初心を温め、共に未来へ向かう」をテーマとし、手を携えて中日地方友好都市協力モデルを構築し、新時代の要求に合致する中日関係の構築に地方の力で貢献することを目的としている。³

（七）青少年

2018年10月、日本の安倍晋三元首相が訪中した。両国の首脳は今後5年間で総規模3万人の青少年相互訪問交流を実施し、2019年を「中日青少年交流推進年」にすることで一致した。これにより、両国の外相は『日本国政府と中華人民共和国政府との間の青少年交流の強化に関する覚書』に署名した。⁴「中日青少年交流推進年」では、中日は以下のイベントを共同で開催した。

2019年1月12日、「中日友好成人式」が駐中国日本大使館で開催された。共同通信によると、中日友好成人式は2011年に始まったもので、草の根交流の一環として日本人留学生の提案で開催され、2019年で9回目となる。⁵学生たちは成年になるのを契機に、今後の人生の道で中日友好の理念を堅持し続け、中日の人的・文化交流の架け橋となるであろう。

2019年下半年、日本では何度も「さくらサイエンスプログラム」が開催された。⁶「さくらサイエンスプログラム」（中日青少年科学技術交流計画）は、日本科学技術振興機構（JST）が2014年から開始した中国側の優秀な青少年の訪日プロジェクトである。2014年以来、10,000人以上の中国の青少年が訪日し、日本の最先端の科学技術と伝統文化を体験してきた。⁷

¹ 洛阳市人民政府外事办公室：《钟声越洋传友谊 文明互鉴开新篇 纪念洛阳市与冈山市缔结友好城市40周年祈福鸣钟活动顺利举行》，2021年4月7日，<http://www.lywqb.gov.cn/newsshow.php?id=656>，2022-9-14。

² 人民网：《2022中日经济与环境交流合作论坛在苏州相城举办》，2022年6月21日，<http://js.people.com.cn/n2/2022/0621/c360301-40004388.html>，2022-08-16。

³ 中国新闻网：《（中国）山东－日本友好城市交流周在济南开幕》，2022年07月21日，<https://www.chinanews.com.cn/gn/2022/07-21/9808958.shtml>，2022-08-16。

⁴ 日本国驻华大使馆：《“日中青少年交流促进年”认定活动官方日程》，2020年1月6日，https://www.cn.emb-japan.go.jp/itpr_zh/00_000111.html，2022-08-17。

⁵ 环球网：《深化两国青年交流，第九届中日友好成人仪式在北京举行》，2019年1月14日，<https://world.huanqiu.com/article/9CaKrNkgZOH>，2022-08-17。

⁶ 日本国驻华大使馆：《“日中青少年交流促进年”认定活动官方日程》，2020年1月6日，https://www.cn.emb-japan.go.jp/itpr_zh/00_000111.html，2022-08-17。

⁷ 科学技術振興機構：『パンフレット・報告書 | さくらサイエンスプログラム』（科学技術振興機構：桜花科技項目），<https://ssp.jst.go.jp/pamph/>，2022-08-16。

2019年12月23日、中国人民对外友好協会と中国日本友好協会が共催する中日青少年友好交流大会が開催された。王毅国務委員兼外相は祝辞の中で、現在中日関係は新たな歴史的出発点に立っており、両国の若者は自分の責任を意識し、少しずつ実際の行動で中日友好の擁護者、中日交流の促進者、中日協力の推進者としてたゆまず努力しなければならないと指摘した。¹

日本国際交流基金は、中国と日本の未来を担う若者の「心と心を結び合う」をテーマに、「高校生交流事業」「中国ふれあいの場事業」「ネットワーク強化事業」の3つの事業を展開している。²

「中日青少年交流推進年」には、国際交流基金が何度も中日交流活動を行った。例えば、2019年3月14～21日に開催された日本の高校生の短期訪中イベント、9月17～29日に開催された大学生交流イベント、11月1～5日の令和元年「心と心を結び合う：中国高校生の長期招へい事業」の高校の校長・教師の訪中事業などだ。³これらの活動は中日青少年の相互理解を促進し、中日の人的・文化交流の質と持続性を高めた。

2022年3月、駐日中国大使館は「手を携えて未来へ向かう——中日国交正常化50周年中日大学生フォーラム」を開催した。駐日中国大使館の楊宇臨時代理大使は、未来は青年のものであり、中日関係の素晴らしい将来は青年に託されている。青年世代が共に努力して実現する必要があると述べた。また、中日の学生たちに、独立して考える能力を持つこと、中日交流の架け橋となること、中日友好の志を立てることの3つの提案を行った。⁴

2022年6月、中国教育部が支援し、北京大学が主催する「アジア青少年交流計画」が4つのコースを修了した。「アジア青少年交流計画」は2021年9月に開始し、アジアの青少年間の深い友情を促進し、中日両国の将来の傑出した人材の相互信頼と理解を促進することを目的としている。プロジェクト期間中、中日両国のトップ中学校から来た100人余りの中学生が北京大学の教授について人工知能、化学と生物医薬、心理と脳科学及び人文芸術分野の知識を学び、関連学科の最前線の研究課題と先端の研究成果を探究した。両国の学生は、オンラインライブ放送とプラットフォームを相互に利用して、言語の壁を越え、思考の衝突の中でインスピレーションを得て、友情を深めた。⁵

（八）経済と貿易

中日の二国間貿易は中日の経済関係の基盤である。国交正常化以降、両国の貿易額は拡大し

¹ 人民网：《青春洋溢、携手同行 中日青少年友好交流大会在京举行》，2019年12月24日，<http://japan.people.com.cn/n1/2019/1224/c35421-31520612.html>，2022-08-16。

² 国際交流基金：『日中21世紀交流事業とは』（国際交流基金：《日中21世紀交流事業简介》），https://xinlianxin.jpf.go.jp/zh/about_zh/，2022-08-16。

³ 日本国驻华大使馆：《“日中青少年交流促进年”认定活动官方日程》，2020年1月6日，https://www.cn.emb-japan.go.jp/itpr_zh/00_000111.html，2022-08-17。

⁴ 人民网：《驻日使馆举办“携手向未来——纪念中日邦交正常化50周年中日大学生论坛”》，2022年3月31日，<http://world.people.com.cn/n1/2022/0331/c1002-32389283.html>，2022-08-16。

⁵ 北京大学国际合作部：《“亚洲青少年交流计划”第四次直播课暨结业仪式举行》，2022年6月21日，<https://www.oir.pku.edu.cn/info/1035/6094.htm>，2022-08-18。

続け、1972年の10億ドルから2011年の3428億9000万ドルまで、ほぼ10年ごとに拡大している。その後、2012年から2020年までの9年間、複数の要因が影響し、年平均成長率は-0.67%と、以前の成長率とはかけ離れたものになった。しかし、2021年、中日の貿易は前年同期から17.1%増加し、貿易総額は3714.0億ドルとなり、過去最高を更新した。日本財務省の統計によると、日本の対中輸出は19.2%増加し、対中輸入は16.3%増加し、中国側の統計とほぼ同じであった。¹ 2022年1月から6月にかけて、中国の対日輸出は5,376.0億元で、前年同期比で3.5%増加した。² 一方、『地域的な包括的経済連携協定』(RCEP)の正式発効により、中国、日本の2つの貿易大国は初めて自由貿易協定関係を確立した。このため、二国間貿易促進効果が急速に顕在化し、中日経済貿易協力はより多くの発展の機会をもたらすであろう。³

2021年12月16日、第38回中日経済知識交流会が開催された。中国側首席代表で中国国务院発展研究センターの馬建堂党組書記は、次のように指摘した。2021年第3四半期、中日両国の二国間貿易は前年同期比20%を超え、強靱性と巨大な潜在力を示し、中日経済貿易協力の優位性の相補性、相互利益とウィンウィンの状況、市場ルール、中日両国の国民の利益に合致していることがさらに明らかになった。中国は国民を中心とした発展思想を堅持し、革新、協調、グリーン、開放、共有の新しい発展理念を積極的に実施し、日本側は成長と分配を両立する「新資本主義」の発展理念を提唱し、双方はグリーン低炭素、デジタル経済、産業チェーン・サプライチェーン、地域・多国間分野での実務協力を一層拡大することができる。日本政策投資銀行の木下康司代表取締役は、中長期的に見て、日中両国はコロナ禍が経済に与える衝撃、カーボン・ニュートラルなどの気候変動対策、人口の高齢化問題などの共通課題に直面していると考えている。そして、両国が関連分野で協力を強化することは、地球規模の問題の解決に有力な支援を提供することができ、双方が上述の問題を解決するために共に主導的な役割を果たすことができると信じている。⁴

2021年12月27日、中国国家発展改革委員会、商務部と日本経済産業省、日中経済協会が共催する第15回中日省エネ・環境保護総合フォーラムがビデオ方式で開催された。中日省エネ・環境保護総合フォーラムは国务院が承認した総合的なフォーラムであり、2006年から現在まで15回開催され、累計413件の協力プロジェクトが署名され、中日両国の省エネ・環境保護、グリーン開発分野での協力のための重要なプラットフォームとなっている。⁵ 第15回フォーラム

¹ 張季風：《中日經貿關係：“危”“機”并存，前景可期》，《東北亞學刊》2022年第2期，第3-14頁。

² 國家發展改革委員會：《2022年1至6月我國對日本進出口情況》，2022年7月27日，https://www.ndrc.gov.cn/fggz/jjmy/dwjmjzcfx/202206/t20220624_1331530.html?code=&state=123，2022-09-01。

³ 中華人民共和國商務部公共商務信息服務：《RCEP紅利顯 中日經貿暖意濃》，2022年8月19日，<http://chinawto.mofcom.gov.cn/article/e/s/202208/20220803342259.shtml>，2022-09-01。

⁴ 中日經濟交流網：《重要歷史節點將至，中日如何加強經貿合作？》，2021年12月17日，<http://cjkeizai.j.people.com.cn/n1/2021/1217/c368505-32311027.html>，2022-08-17。

⁵ 新華網：《第十五屆中日节能环保綜合論壇以視頻方式舉行》，2021年12月26日，http://www.news.cn/2021-12/26/c_1128202491.htm，2022-08-16。

では、中日双方は、優位性の相互補完と互惠・ウィンウィンに着目し、カーボン・ピークアウト、カーボン・ニュートラルの目標にリードされた経済回復、グリーン開発、国民生活の改善に努めるべきだと述べた。1つ目は、アジア太平洋地域のハイレベルな開放を拡大することである。2つ目は、政策対話と交流を強化することである。3つ目は、省エネ・環境保護分野の協力を深化させることである。¹⁾

05 中日の人的・文化交流 の特徴のまとめと未来展望

中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの確立は、中日の人的・文化交流の実践の促進、中日の人的・文化交流のレベルの向上、中日の人的・文化交流の意義の豊富化、両国国民の友情の増進などの面で重要な意義を持っている。中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みは中国の中外人的・文化交流の「十大」枠組みの中で最も若い枠組みであり、中国の特色ある大国外交を推進する第3の柱である人的・文化交流の制度化発展の最新成果でもあり、歴史的基盤が厚く、発展の潜在力が大きく、両国の政治経済関係と密接に関連しているなどの特徴を持っている。

まず、中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みには厚い歴史的基盤がある。古代の日本は中国の先進的な大陸文化を大規模に吸収し手本とし、近代の中国も日本を西洋の工業文明の成果を学ぶ窓口とした。新中国の建国後、「民を以て官を促す」の方針は、二国間関係の正常化のための良い雰囲気を作り出した。1972年の中日国交正常化は中日の人的・文化交流事業に新たな活力を注入し、両国の人的・文化交流は民間主導から政府と民間双方へと変化し、協力して推進するようになった。中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みの順調な確立は、両国の人的・文化交流の深い歴史的経験に依拠し、新時代にふさわしい中日関係の発展のために制度化されたプラットフォームを提供した。

次に、中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みは巨大な発展潜在力を持っている。ある面、

¹⁾ 人民网：《第十五届中日节能环保综合论坛举行 双方签署合作项目 11 个》，2021 年 12 月 27 日，<http://japan.people.com.cn/n1/2021/1227/c35421-32317508.html>，2022-08-16。

外部条件に関しては、中日両国は非常に近い関係である。¹ 両国は同じ東アジア文化圏に属し、共通の文化に対して高い共感を持っている。特殊な歴史的・文化的背景と地政学的条件は、両国が共通認識を結集し、相違を解消し、人的・文化交流の最大の潜在力を解放するのに役立つ。別の面では、内在的原動力に関しては、経済のグローバル化の深い発展に伴い、中日の人的・文化交流の内容も日に日に豊富になり、文化、観光、教育、スポーツ、地方協力、経済貿易交流などの様々な形式をカバーし、両国の人的・文化交流の深い発展の実現に役立っている。

最後に、中日ハイレベル人的・文化交流対話枠組みは両国の政治経済と密接に関連している。経済貿易関係は中日関係のバラストストーンであり、推進器でもある。² 2002年と2007年に中国は日本の最大輸入相手国、最大貿易相手国となり、³ 2021年には日本は中国の第4位の貿易パートナーとなり、両国経済の相互依存の継続的な高まりは政府、民間の積極的な人的・文化交流を展開する強大な原動力となった。政治関係は中日の人的・文化交流にも顕著な影響を与えている。両国には歴史、領土、主権などの議題において一定の相違があり、これらの敏感な矛盾が激化すると、中日の人的・文化交流にも大きな変動が生じるであろう。しかし、人的・文化交流は政治的相互信頼、経済貿易協力に対しても強大な反作用があり、幅広い分野での高品質で常態化した人的・文化交流の枠組みは中日両国の政治的相互信頼、経済貿易協力のさらなる画期的な発展の実現に良好な雰囲気醸成することができることに注意しなければならない。

2022年は中日国交正常化50周年であり、新たな歴史的出発点に立ち、中日の人的・文化交流のさらなる発展をどのように推進するかは思考すべき重要な時代の命題である。

第一に、中日の人的・文化交流の世論基盤を一層強化すべきである。2021年10月20日、中国外文局と日本言論NPOは記者会見を開き、2021年の中日関係世論調査の結果を発表した。調査によると、中国側の一般回答者の70.9%が中日関係を「重要(または比較的重要)」と考えており、日本側の一般回答者の66.4%が同様の見解を持っていた。80.6%の中国側一般回答者と56.4%の日本側一般回答者はいずれも歴史問題が中日関係の重大な問題だと考えている。62.4%の中国一般回答者と56.7%の日本一般回答者は領土紛争を中日関係の発展を阻害する最も主要な問題と見なしている。⁴

2022年1月21日、日本の内閣は外交に関する世論調査を発表し、調査結果は下図のようになった。⁵

¹ 外交部：《王毅在纪念中日邦交正常化50周年研讨会开幕式上发表视频致辞》，2022年9月12日，https://www.mfa.gov.cn/wjbzhd/202209/t20220912_10765250.shtml，2022-09-16。

² 张季风：《中日经济关系透视与展望》，“纪念中日邦交正常化45周年”国际学术研讨会，北京：中国社会科学院日本研究所，2017年8月26日-27日。

³ 根据日本贸易振兴机构(JETRO)数据统计。

⁴ 中国网：《中国发布 | 2021年中日关系舆论调查结果发布 两国公众认同中日关系重要性》，2021年10月20日，http://news.china.com.cn/2021-10/20/content_77822084.html，2022-08-16。

⁵ 参见：内閣府（内閣）：<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-gaiko/2-1.html>，2022-08-16。

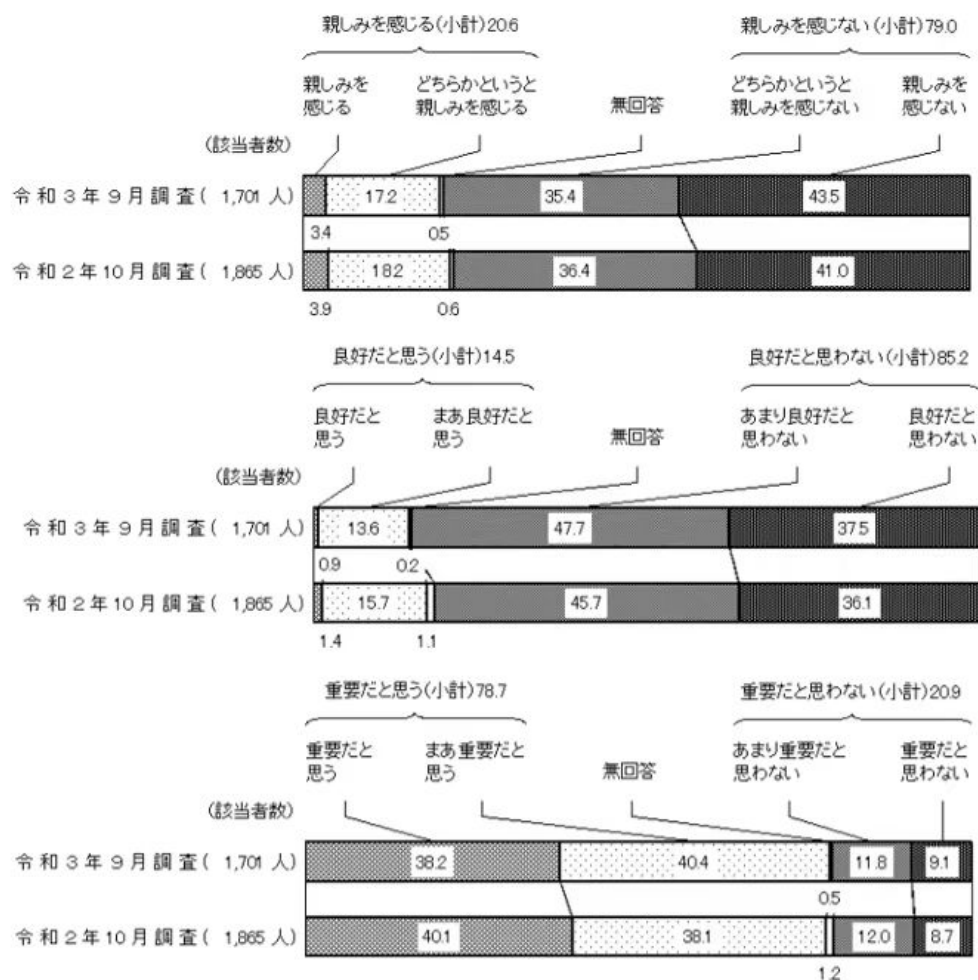


図2 日本の内閣が発表した外交に関する世論調査

統計データからもわかるように、両国の国民は中日両国が東アジアの隣国として調和のとれた二国間関係を維持し、地域の安定を促進する責任と義務を負っているとの認識で一致している。一方、歴史、領土、安全保障の3つの問題は、中国と日本の政府の交流に影響を与え続けており、両国の国民の好感度には、まだ改善の余地がある。したがって、二国間関係のより深い発展を促進するためには、中日の人的・文化交流の世論基盤を固めなければならない。

次に、中日の人的・文化交流と政治的相互信頼の双方向の役割を重視しなければならない。中日両国は東アジア地域の大国として、両国関係が地域の発展と平和に対して深遠かつ重大な影響を及ぼしている。現在、両国関係には「政冷経熱」、「官冷民熱」の特徴があり、歴史、領土、安全保障などの敏感な議題においては依然として相違がある。人と人との交流、文化と文化の相互理解は人類文明の根本的な属性である。中日両国は地域の安定を維持し、平和、友好、協力の大きな方向性を揺るぎなく堅持し、両国の人的・文化交流と政治的相互信頼の双方向的役割の発揮をさらに重視する必要がある。

最後に、中日の人的・文化交流の方式を革新し、分野を広げなければならない。新型コロナウイルスの発生は世界の人的・文化交流に一定の障害をもたらしたが、中日両国の人的・文化交流は依然として持続性と粘り強さを示している。2020年に新型コロナウイルスが爆発し、日本

政府と多くの地方、企業がマスク、ゴーグル、防護服などの防疫物資を積極的に中国側に寄贈した。物資包装箱に書かれた「山川域を異にすれども 風月天を同じうす」、「豈に衣無しと曰い、子と裳を同じうせんや」は中国の民衆を深く感動させた。¹間もなく、日本で新型コロナウイルスが拡散し、中国政府、関係地域、民衆がマスクなどの防疫物資を大量に日本側に寄贈した。浙江省杭州市のある愛ある企業が寄付したマスクには、「雁が北に帰る春 気持ちを携えて海を渡る 一衣帯水の絆かな」と書かれていた。古詩を贈り、俳句を返した。「相手が読める言葉で、私たちの本当の感情を伝える。」これは支援物資の俳句の作者で、日本で長年働いていた浙江大学経済学部夏瑛教授が表現した初心だ。²苦境にあるときにこそ真情がわかる。中日両国の政府と国民は互いに助け合い、詩句を通じて互いに励まし合い、コロナ禍に抵抗した。これは、外部環境がどのように変化しても、人的・文化交流が常に両国の民心の強靱な絆であることを示している。新型コロナウイルスの影響に対応するためには、中日の人的・文化交流は、公衆衛生、グリーン開発、スマートシティ、医療健康などの新しい分野で重点的に力を入れ、「クラウド対話、クラウド展示、クラウドプロモーション」³などの新しい形式の探求を加速することができる。

50年前、中日国交正常化は、過去100年間の中日関係の発展経路を変え、中日関係の友好協力への歩みを促進した。50年後の今日、新時代の百年の変局の中にある中日関係は外部環境において多くの変化が起こった。現在の国際情勢は複雑かつ流動的であり、中日関係は地域と世界の安全と安定にとって極めて重要である。新たな歴史的出発点に立ち、中日両国は、中日の人的・文化交流の枠組みの役割を十分に発揮し、二国間関係の意義を引き続き充実させ、新たな協力空間をさらに広げ、新時代の要求に合致する中日関係の構築と発展に人文的支援を提供し、東アジア人文共同体と人類運命共同体の構築を推進するために実質的かつ模範的な力を貢献する必要がある。

¹ 人民网：《外交部：日本暖心举动，中方铭记在心》，2020年2月5日，http://japan.people.com.cn/n1/2020/0205/c35421-31572713.html?ivk_sa=1023197a，2022-09-01。

² 人民网：《通讯：山川异域同风雨——记中日民众借诗句互励共抗疫情》，2020年5月6日，<http://world.people.com.cn/n1/2020/0506/c1002-31698505.html>，2022-09-01。

³ 熊淑娥：《疫情下中日民间交流新动向》，杨伯江等主编：《日本蓝皮书：日本研究报告（2021）》，北京：社会科学文献出版社2021年，第184页。

参考文献：

- [1] 新华网：《王毅同日本外相林芳正通电话》，2021年11月18日，http://www.news.cn/2021-11/18/c_1128077923.htm，2022-09-16。
- [2] 尹允镇、李文娇：《试论中日人文交流的演变、特征及发展趋势》，《东北亚论坛》2020年第3期，第90页。
- [3] 新华网：《习近平在中日友好交流大会上的讲话（全文）》，2015年5月23日，http://www.xinhuanet.com/politics/2015-05/23/c_1115384379.htm，2022-08-16。
- [4] 环球网：《习近平会见安倍晋三，双方达成十点共识》，2019年6月27日，<https://m.huanqiu.com/article/9CaKrnKlbCw>，2022-08-16。
- [5] 中国政府网：《王毅同日本外相茂木敏充共同主持中日高级别人文交流磋商机制首次会议》，2019年1月25日，http://www.gov.cn/guowuyuan/2019-11/25/content_5455481.htm，2022-08-16。
- [6] 人民网：《习近平向中日高级别人文交流磋商机制首次会议致贺信》，2019年11月25日，<http://politics.people.com.cn/n1/2019/1125/c1024-31473371.html>，2022-08-16。
- [7] 中国政府网：《王毅同日本外相茂木敏充共同主持中日高级别人文交流磋商机制首次会议》，2019年11月25日，http://www.gov.cn/guowuyuan/2019-11/25/content_5455481.htm，2022-08-16。
- [8] 新华网：《王毅：中日达成五点重要共识和六项具体成果》，2020年11月24日，http://www.xinhuanet.com/world/2020-11/25/c_1126781909.htm，2022-09-21。
- [9] 外交部：《日本大使孔铉佑在日中协会发表“纪念邦交正常化50周年、思考和平与发展时代主题”演讲》，2022年6月1日，https://www.mfa.gov.cn/web/zwbd_673032/gzhd_673042/202206/t20220601_10697514.shtml，2022-08-16。
- [10] 外務省：『Magnetism of Japan ~ 日本のソフトパワーを追って ~』（外務省：《Magnetism of Japan ~ 追求日本软实力 ~》），2007年11月28日，https://www.mofa.go.jp/mofaj/annai/listen/interview2/intv_01.html，2022-08-16。
- [11] 外務省：『広報文化外交』（外務省：《公共外交》），<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/index.html>，2022-08-16。
- [12] 人民网：《中日第七次高级别政治对话在北京举行》，2019年12月6日，<http://world.people.com.cn/n1/2019/1206/c1002-31494603.html>，2022-08-16。
- [13] 人民网：《中日第八次高级别政治对话在东京举行》，2020年2月29日，<http://japan.people.com.cn/n1/2020/0229/c35421-31610512.html>，2022-08-16。
- [14] 中国新闻网：《王毅同日本外相茂木敏充举行会谈》，2020年11月24日，<https://www.chinanews.com.cn/gn/2020/11-24/9346600.shtml>，2022-09-01。

- [15] 中国网:《中国发布 | 第十七届“北京—东京论坛”发表共识 中日应携手解决全球性问题》, 2021年10月26日, http://news.china.com.cn/2021-10/26/content_77834426.html, 2022-08-16。
- [16] 人民网:《王毅同日本外相林芳正通电话》, 2021年11月19日, <http://cjkeizai.j.people.com.cn/n1/2021/1119/c368504-32287148.html>, 2022-08-16。
- [17] 人民网:《中日第九次高级别政治对话在天津举行》, 2022年8月18日, <http://cjkeizai.j.people.com.cn/n1/2022/0818/c368504-32505895.html>, 2022-09-01。
- [18] 中华人民共和国驻日本国大使馆:《驻日本使馆举办“不忘初心、开创未来”纪念中日邦交正常化50周年研讨会》, 2022年9月12日, http://jp.china-embassy.gov.cn/sgkxnew/202209/t20220912_10765287.htm, 2022-09-14。
- [19] 新华网:《中日双方就稳定和发展双边关系达成五点共识》, 2022年11月18日, http://www.news.cn/world/2022-11/18/c_1129137848.htm, 2022-11-18。
- [20] 外交部:《王毅出席纪念中日和平友好条约缔结45周年招待会》, 2023年10月24日, https://www.mfa.gov.cn/web/zwbd_673032/gzhd_673042/202206/t20220601_10697514.shtml, 2023-10-24。
- [21] 人民网:《为构建人类命运共同体提供东方智慧 中日和合文明论坛召开》, 2020年12月7日, <http://japan.people.com.cn/n1/2020/1207/c35421-31957400.html>, 2022-08-16。
- [22] 人民网:《2021“熊猫杯”日本青年征文大赛举行线上颁奖仪式》, 2021年11月24日, <http://world.people.com.cn/n1/2021/1124/c1002-32291148.html>, 2022-08-16。
- [23] 人民网:《“OneAsia 亚洲节 2022”在东京举办 促进中日文化交流》, 2022年4月11日, <http://japan.people.com.cn/n1/2022/0411/c35421-32396246.html>, 2022-08-16。
- [24] 中国教育国际交流协会:《第七届中日教育交流会在青岛成功举办》, 2021年7月9日, <http://www.ceaie.edu.cn/zongheyuyanfabu/bumendongtai/2721.html>, 2022-08-17。
- [25] 人民网:《深化人文领域交流 第六届中日教育交流会举办》, 2019年11月28日, <http://japan.people.com.cn/n1/2019/1128/c35421-31478536.html>, 2022-08-16。
- [26] 中国教育国际交流协会:《第七届中日教育交流会在青岛成功举办》, 2021年7月9日, <http://www.ceaie.edu.cn/zongheyuyanfabu/bumendongtai/2721.html>, 2022-08-17。
- [27] 日经中文网:《夏目英男:冬奥成为促进日中理解的契机》, 2022年2月21日, <https://cn.nikkei.com>, 2022-08-16。
- [28] 新华网:《第一届中日旅游论坛在日本成功举办》, 2019年12月6日, http://www.xinhuanet.com/world/2019-12/06/c_1125313687.htm, 2022-08-16。
- [29] 中华人民共和国文化和旅游部:《第二届中日旅游论坛在绍兴举办》, 2021年12月8日, https://www.mct.gov.cn/whzx/whyw/202112/t20211208_929663.htm, 2022-08-16。

- [30] 人民网:《中日新时代健康论坛举行》,2020年12月24日,<http://gs.people.com.cn/n2/2020/1224/c183356-34491726.html>,2022-08-16。
- [31] 日本医疗国际化机构:《第二届中日新时代健康论坛成功举办》,2021年6月7日,<https://ngmo.or.jp/cn/?p=987>,2022-08-16。
- [32] 日本東方新報:《日中友好城市温暖彼》,2022年9月2日,http://www.livejapan.cn/static/content/review/review_sound/review_sound_editorial/2022-09-02/1015337494377533440.html,2022-9-14。
- [33] 洛阳市人民政府外事办公室:《钟声越洋传友谊 文明互鉴开新篇 纪念洛阳市与冈山市缔结友好城市40周年祈福鸣钟活动顺利举行》,2021年4月7日,<http://www.lywqb.gov.cn/newsshow.php?id=656>,2022-9-14。
- [34] 人民网:《2022中日经济与环境交流合作论坛在苏州相城举办》,2022年6月21日,<http://js.people.com.cn/n2/2022/0621/c360301-40004388.html>,2022-08-16。
- [35] 中国新闻网:《(中国)山东—日本友城交流周在济南开幕》,2022年07月21日,<https://www.chinanews.com.cn/gn/2022/07-21/9808958.shtml>,2022-08-16。
- [36] 日本国驻华大使馆:《“日中青少年交流促进年”认定活动官方日程》,2020年1月6日,https://www.cn.emb-japan.go.jp/itpr_zh/00_000111.html,2022-08-17。
- [37] 环球网:《深化两国青年交流,第九届中日友好成人仪式在北京举行》,2019年1月14日,<https://world.huanqiu.com/article/9CaKrnKgZOH>,2022-08-17。
- [38] 科学技术振興機構:『パンフレット・報告書 | さくらサイエンスプログラム』(科学技术振兴机构:樱花科技项目),<https://ssp.jst.go.jp/pamph/>,2022-08-16。
- [39] 人民网:《青春洋溢、携手同行 中日青少年友好交流大会在京举行》,2019年12月24日,<http://japan.people.com.cn/n1/2019/1224/c35421-31520612.html>,2022-08-16。
- [40] 国際交流基金:『日中21世紀交流事業とは』(国际交流基金:《日中21世纪交流事业简介》),https://xinlianxin.jpif.go.jp/zh/about_zh/,2022-08-16。
- [41] 人民网:《驻日使馆举办“携手向未来——纪念中日邦交正常化50周年中日大学生论坛”》,2022年3月31日,<http://world.people.com.cn/n1/2022/0331/c1002-32389283.html>,2022-08-16。
- [42] 北京大学国际合作部:《“亚洲青少年交流计划”第四次直播课暨结业仪式举行》,2022年6月21日,<https://www.oir.pku.edu.cn/info/1035/6094.htm>,2022-08-18。
- [43] 张季风:《中日经贸关系:“危”“机”并存,前景可期》,《东北亚学刊》2022年第2期,第3-14页。

- [44] 国家发展改革委员会:《2022年1至6月我国对日本进出口情况》,2022年7月27日,https://www.ndrc.gov.cn/fggz/jjmy/dwjmjzcfx/202206/t20220624_1331530. 中华人民共和国商务部公共商务信息服务:《RCEP红利显 中日经贸暖意浓》,2022年8月19日,<http://chinawto.mofcom.gov.cn/article/e/s/202208/20220803342259.shtml>, 2022-09-01。
- [45] 中日经济交流网:《重要历史节点将至,中日如何加强经贸合作?》,2021年12月17日,<http://cjkeizai.j.people.com.cn/n1/2021/1217/c368505-32311027.html>, 2022-08-17。
- [46] 新华网:《第十五届中日节能环保综合论坛以视频方式举行》,2021年12月26日,http://www.news.cn/2021-12/26/c_1128202491.htm, 2022-08-16。
- [47] 人民网:《第十五届中日节能环保综合论坛举行 双方签署合作项目11个》,2021年12月27日,<http://japan.people.com.cn/n1/2021/1227/c35421-32317508.html>, 2022-08-16。
- [48] 外交部:《王毅在纪念中日邦交正常化50周年研讨会开幕式上发表视频致辞》,2022年9月12日,https://www.mfa.gov.cn/wjbzhd/202209/t20220912_10765250.shtml, 2022-09-16。
- [49] 张季风:《中日经济关系透视与展望》,“纪念中日邦交正常化45周年”国际学术研讨会,北京:中国社会科学院日本研究所,2017年8月26日-27日。
- [50] 中国网:《中国发布|2021年中日关系舆论调查结果发布 两国公众认同中日关系重要性》,2021年10月20日,http://news.china.com.cn/2021-10/20/content_77822084.html, 2022-08-16。
- [51] 内閣府(内阁):<https://survey.gov-online.go.jp/r03/r03-gaiko/2-1.html>, 2022-08-16。
- [52] 人民网:《外交部:日本暖心举动,中方铭记在心》,2020年2月5日,http://japan.people.com.cn/n1/2020/0205/c35421-31572713.html?ivk_sa=1023197a, 2022-09-01。
- [53] 人民网:《通讯:山川异域同风雨——记中日民众借诗句互励共抗疫情》,2020年5月6日,<http://world.people.com.cn/n1/2020/0506/c1002-31698505.html>, 2022-09-01。
- [54] 熊淑娥,《疫情下中日民间交流新动向》,杨伯江等主编:《日本蓝皮书:日本研究报告(2021)》,北京:社会科学文献出版社2021年,第184页。



沟通人文，理解世界

Connecting People, Understanding the World



本研究得到

北京高校卓越青年科学家计划项目

(BJJWZYJH01201910001007)

支持



iGCU

北京大学中外人文交流研究基地

INSTITUTE FOR GLOBAL COOPERATION AND UNDERSTANDING, PEKING UNIVERSITY



北大中外人文交流



北京大学人文交流研究



北京大学中外人文交流研究基地



igcu@pku.edu.cn



PKU-iGCU



PKU-iGCU



iGCU-PKU



iGCU